



〈サロン・あべの〉5月の出会い

青葉輝く平成20年5月17日  
 (土) 午後1時〜4時、育徳コミ  
 ユニティーセンター2階研修室  
 において、「子育て途上に思うこ  
 とくささやかな私の選択」と題  
 して、子育て真っ最中の大賀由佳  
 さん(社会福祉士・介護  
 支援専門員)に話をし  
 ていただきました。

こころのふるさと

平成4年の春に大学  
 を卒業して、大阪市阿  
 倍野区阪南町にある育

徳園1階に開所していた「あべの  
 ボランティア・ビューロー」に週  
 3回の勤務から始めました。その  
 当時の「あべのボランティア・ビ  
 ユロー」室は、台所やトイレも  
 ついでに畳敷きの部屋で大き  
 な事務机が1つと椅子2つとい  
 うような所。ボランティアさんが

来られると膝を突き合わせて話  
 が出来る温かい雰囲気の仕事所  
 でした。当時の職員は2名で、後

はボランティアの方がいろいろ  
 とお手伝いをされていました。  
 社会人として初めての仕事場で、  
 ボランティアコーディネーター  
 やソーシャルワーカー、ケアマ

子育て途上に思うこと

ささやかな私の選択

ボランティア・ビューロー室、こ  
 どものおもちゃ図書館、多目的  
 室などがありました。ここで勤  
 務している24歳のときに結婚、  
 26歳のときに長女出産。その後、  
 転勤で阿倍野区を離れて16年の  
 歳月が流れました。が、今日のサ  
 ロンの出会いには、昔のお顔な  
 じみの方が多数参加くださって  
 おり、懐かしさと嬉しさがこみ  
 上げてきます。「あべの」は私の  
 心のふるさとだと実感しました。

育児と仕事

今日は長女6年生、長男2年  
 生、二女9カ月の3人の子ども  
 を連れて奈良から来ました。懐  
 かしい皆さんに見ていただきた  
 いことと、子どもたちにも皆さ  
 んのことを知ってほしいと思っ  
 たからです。長女、長男を出産し  
 たときは、仕事と両立させるこ  
 とが当然と考えていました。奈  
 良に住んでおり、大阪まで勤務

することも60歳の定年まで、しっかりと働くことも人生の予定に入っていました。子どもは7カ月くらいから保育士さんに預けて、子どもには親の働く姿を見

せておけばよいと考えていました。幸い近くに住む両親が全面的に応援し、協力してくれました。保育所の送迎も夫婦が協力し合

て、していました。どちらもが遅い帰宅になる時や、夏休みのように長い休みの時などは両親に助けをもらいました。奈良の保育所は布

おむつが基本になっていて、迎えに行く时使用済みのおむつを渡されます。ずっしりとした重みのあるおむつを持ち帰り、夜遅く手洗いながら、子どもとつながっていることを実感したり、離乳食作りががんばったり、添い寝をしながら毎晩本の読み聞かせをしたり、寝かせた後で持ち帰った仕事をしたり、翌日の準備をしたりで午前1時2時まで家事をしていたこともあり

が、車に飛び乗ると働く時間に切り替えて仕事のことを考える、という自分自身にとって充実した毎日を過していました。しかし年月が過ぎると、仕事では責任のある立場になってきます。家では妻・母・保護者という何役もの社会的役割や拡がりが出てきました。それが喜びであり充実感として受け止めていました

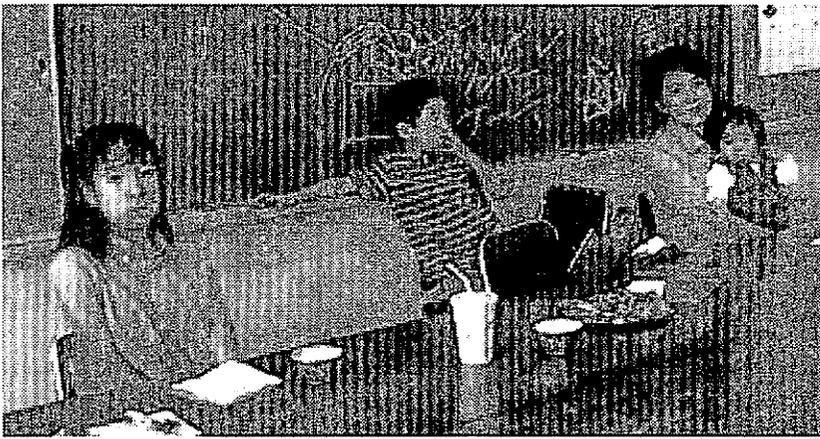
ので、ストレスもなく過せました。ガッツがあればという気持ちで娘が4歳の時長男を出産しました。2人を保育所に預けている間は時間的はずれはなかったのですが、長女が小学1年生になると帰宅は午前中になりました。学童保育のバンビーホー

ムも5時までの預かりで迎え時間には時間差が生じてきました。そこへ隣の校区で小学1年生誘拐殺人事件が起きました。それまでは子どもは親の姿を見て育て、過保護に育てたくないと考えていました。しかし、周辺の社会環境が変わってきたことを痛感。子どもの登下校も安心できない、習い事をさせるのもままならない。自分が育ってきた環境と違うことに気づき、これは大変だと思いました。体力や精神面だけで解決できない物理的なことがあると思いました。しかし、職場での相談業務などでは子を持つて分かることもあり、子育てと仕事は両立できると思

### 3人目の子ども

2人の子どもの成長とともに、子どもたちから赤ちゃんが欲しいという言葉が出てきました。自分自身も子どもを育てる中でその可愛さ、面白さを感じていましたし、健康な体に恵まれて

いることを考えると授かれるものなら3人目をと願いました。世間では長女・長男がいるのだから、なんで今一から始めるのかと言われもしましたが、どう



3人のお子さんに囲まれて話す大賀さん

してもほしいと思いました。夫からはそれぞれが働く中で3人目を育てるのは難しいのではと言われましたが、恵まれた職場なので子育ての経験も生かさせて両立できると考えていました。

出産時は家族の全員が立会い、赤ちゃんを出迎えてくれました。産休の間はどっぷり育児につかれると思いましたが、長女は自分の子どものように上手に世話ができますし、長男も1年生になったのですから、時間はたっぷりあると感じたのです。しかし、今までのスタイルではやっていけないことが分かってきました。まず、夫の転勤があり、小学1年生の長男は娘の時とは違う社会環境になっていたということ。私が仕事に戻った時、安全をお金で買えるかと考えました。ベビーシッターで子育てを補うか、コンビニのお弁当ですませるかなどを考えますと、答えは否と。

この時、続けて働きたい、仕事を辞めればポツカリ穴があいた自分がいると思いましたが、今求められているのは安全な家庭生活と家事。この一瞬を重視しようと思いを切り替えました。復帰する約束をたがえて昨年12月に市社協を退職しました。仕事を辞めるのはもったいないとも言われましたが、毎日安全に育てるだけでも大変なことです。今

の日々は単調な繰り返しですが、その中身はスゴイ仕事と痛感しています。毎日の小さな積み重ねを丁寧にしていきたい、第3子の幼稚園には付き添って行きたいと思っています。今はなんの答えも出ていませんが、母として保護者として過したい。また、地域でのつながりを大切にしていききたいと思いが、この道を選び取りました。

健やかに育てられた3人のお子さんに囲まれてお話くださった大賀由佳さんは、明るく頼もしいお母さんになっておられました。5月のサロンの出会いは、16年の時空を越えた懐かしさと未来につながる子どもたちとの出会いで温かい思い出作りの時間になりました。

(参加者23名 富田慶子)

お 知 ら せ

<サロン・あべの> 7月の出会い

内 容…子どもの命を守る

お客さま…鳴海賢三さん

(元・児童養護施設職員)

日 時…7月19日(土) 午後1時~4時

場 所…育徳コミュニティセンター2階  
研修室(スロープ・車いすトイレ有)

大阪市阿倍野区阪南町5-15-28

TEL 06-6621-1901

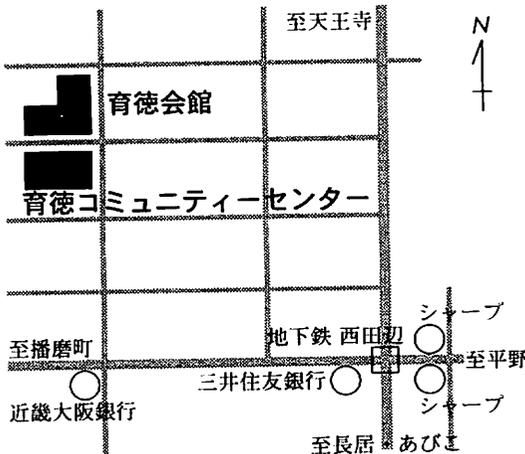
最寄り駅=

地下鉄御堂筋線「西田辺」(エレベーター有) 下車すぐ

会 費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



## 霊媒と認知症

名前を出したほうが印象的になるのなら、そうするが、むかし「若井はんじ・けんじ」という兄弟の漫才師がいた。昭和四十年代には、たいへんな人気だったようだ。

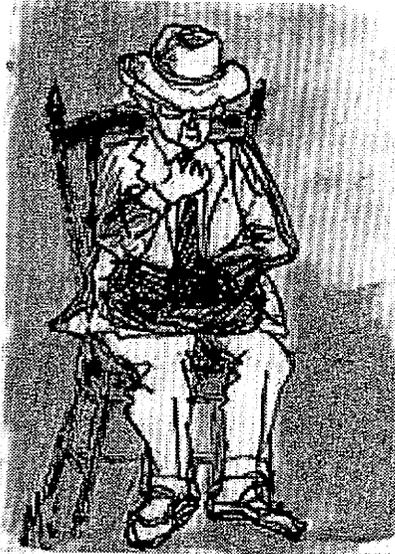
ところが残念なことに、兄の「はんじ」が四十代の若さで病死する。残された弟の「けんじ」は漫才もできずに困ってしまう。経済的にもかなり困窮したようだった。

そんなときテレビ局から霊媒との対面の話がくる。死んだ兄の言葉を弟に聞かせようと

いうわけだ。「けんじ」を久しぶりにテレビで見られると思った私は、チャンネルを合わせた。すると、漫才師の彼が神妙な顔で霊媒を見ていた。

恐山（おそれざん）のイタコと言えば、その姿を想像できるだろうか。白い服をきた小さなお婆さんが何やらボソボソと言っている。「はしつたら、いかんぞ」「はしつたら、い

かんぞ」と、お婆さんが言う。「はしつたら、い



テレビ局の司会者もどういう意味なのかと聞くが、返事はない。けんじは「焦るな、ということですね？」と自分に言い聞かせるように質問していた。お婆さんはそれには答えずに、なにやら小声でつぶやくと、死者との短い対話は終わった。

もう三十年ぐらいい前に見たテレビの一場面なのに奇妙なくらいはつきりと覚えているのは理由がある。お婆さ

### \*好評のエッセイ\*

岡 知史著

知らされない  
愛について

700円

ほんの少しの  
神に近い部分

700円

んの理解できない言葉は、果たして本当に死者が出たものだったのだろうか、それとも霊媒の妄想にすぎないのか、私は知りたいと思っただが、これは今すぐにはわからないだろうと考え、しばらく覚えておこうと心に決めたのである。

それから十年ほどたったとき、一片の小さな新聞記事が私を驚かせた。けんじが交通事故で死ぬのである。本人の過失であった。信号を無視したらしいとも書かれてあった。「走ったら、いかんぞ」というお婆さんの言



# 巴黎祭

—サンケイパリ祭—

日本を代表する15人の歌手によるシャンソンの祭典

出演者=奥田真祐美・仲井和紀・  
深緑夏代・峰大介・  
出口美保・岡本光平・  
藤本統紀子・坂尾彰彦・  
岡村順子・荒尾一夫・  
野田真寿美・高山了一・  
福井晶子(改名)・  
つのだよしひろ・  
山口れい子

日時=7月11日(金)  
開場17時30分  
開演18時30分  
会場=ザ・シンフォニーホール  
入場料=前売¥6000  
当日¥6500

○  
チケット取扱・ご予約・お問合せ=  
奥田真祐美音楽事務所  
TEL・FAX 06-6692-8774

葉を思い出す。これは交通事故を予見した死者の言葉だったのだろうか。

さて、ここからが問題なのだが、霊媒と話しているとき、弟は兄と話していたのだろうか。霊媒から兄しか知り得ないことが話され、弟を弟として認める言葉が出ていたのなら、姿かたちはお婆さんであっても、弟は兄と話していたのかもしれない。

こんなことを思い出したのは、私のことを息子だとはわからないらしい父と話している

と、私は果たして父と話しているのだろうかという気持ちになるからである。顔立ちも声

からしても父に違いないのだが、父が知っているはずのことを知らず、私のことを息子だともわからないのであれば……

父が私と話しながら、誰と話しているのだろうと不思議がるように、実は私も父と話しながら誰と話しているのだろうと思う。相手が誰かわからなくなるのは、認知症の本人だけではなく、家族や周囲の人たちも、またそ

うなのである。

しかし、互いに誰ともわからないままに楽しく話すことができれば、それもいいではないかと思う。父と息子という枠からも自由になり、現在だけに生きる人として向かいあうことができる。霊媒を通してではなく、生身の父の声も受け取ることができれば、それも幸いなのではないだろうか。

「邦子、…ん歳の手習い」はお休みです。

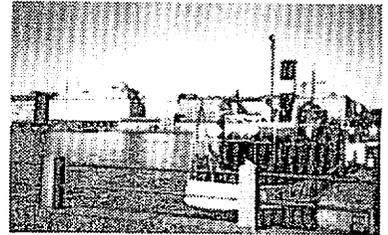
(知)

ムーミンの国へ

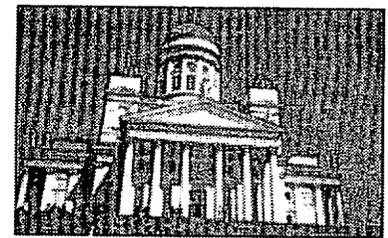
Mai  
スウェーデン  
留学記 21

スウェーデンのお隣の国、フィンランドはご存知ですか？ 同じ北欧として位置づけられています。フィンランドは民族も語族も違うので、スウェーデンとはまた違った雰囲気があります。そして、フィンランドは支配され続けた国でもあるのです。スウェーデンに支配され、ロシアに支配され・・・だからフィンランドに行くと、だいたいフィンランド語とスウェーデン語の両方が表記されているところが多いです。ヘルシンキもロシア正教の教会もあり、ロシア料理が食べられるレストランがある、スウェーデンの文化とロシアの文化が混ざっていると同時に、フィンラ

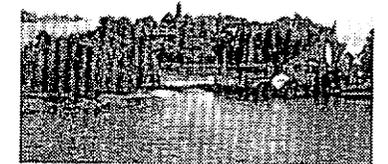
ンド独自の優れたデザインや芸術作品が詰まっている芸術の国でもあります。そして、日本でも有名なムーミンの故郷です。



ヘルシンキの街



ヘルシンキ大聖堂（フィンランドにて）



スオメリナ島  
（世界遺産・フェリーから撮影）

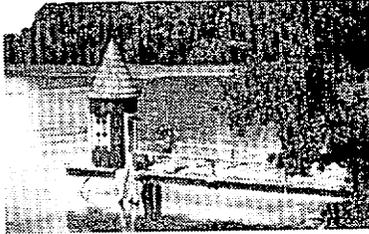
私がフィンランドに行ったのは、夏。ちょうど30度近くまで気温が上がった、一番暑い時期。1番北欧で夏を感じることができた。たった1週間ほどの間に行ってきました。夏のフィンランドは青い海がキラキラ光り、青い空が高く、そこに見るものすべてが眩しく感じる最高の季節です。そもそもフィンランドは、ウプサラでのサマーコースのときに、オプシヨンプランで追加できる旅行でした。ある先生が、スウェーデンに行ったときに、フィンランドにある「ムーミン・ワールド」に行つたということを知っていて、何も迷わずにそのオプシヨンプランに参加したのでした。参加者は20人弱。10代後半から20代前半が多くて、出身国は違いますが、同じ世代というところで、絶対楽しんでやるぞ！という意気込みでした。朝から晩までのスウェーデン語漬けの生活からちよっぴり抜け出た、息抜き

のような感じで、みんながワクワクしてました。ストックホルムからフィンランドまでは、ヴァイキングラインというフェリー。1晩をそこで過ごすことになりました。大きなフェリーで、バーやクラブもあり、食事豪華、みんなウキウキ。ただし、キャビンは、船底なのでとても狭いものです。船の中ではスウェーデンのお金（ユーロ）の両方が使えます。狭いキャビンを抜け出して、外に出て海を眺めたり、値段の高いバーでたっぷりお酒を楽しんだり、ということを私達は夜中まで騒いでやっていました。でもおかげでみんなと良い友達になれ、今でも連絡を取り合っている仲間です。

朝の10時過ぎにフィンランド・ヘルシンキに到着。スウェーデンとフィンランドは時差が1時間あるので、1時間だけ時間を早めま



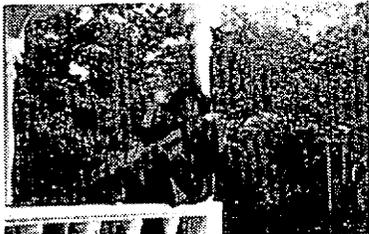
ナントリの街 (ムーミンバスがあります)



ムーミン・ワールド  
(海に囲まれた素敵なテーマパークです)



ムーミン劇場  
(ムーミン・ワールド。ナントリにて)



スナフキン  
(ムーミンのキャラクターを代表するスナフキンもいます。ムーミンの家の前にて)

「ムーミン」の世界に入っていました。ただ、ものすごく暑かったとき。日本では冷房が当たり前ですが、ここ北欧では基本的に暖房はあっても冷房がない場所が多いのです。もちろん「ムーミン・ワールド」も冷房なんてありません。帰りのバスも電車も冷房なし・・・さすがに暑さで参ってしまいました。スウェーデン人の友達から、「どこに行つたの? エストニアに行こうって言つたのに!」って言われちゃいました。だが、ムーミン・ワールドまで行けた私は大満足でした。あんなにキレイな景色はエストニアでは見られないって思いながら。スウェーデンに戻るフェリーの中はまた行く時と同じように・・・バーで飲んだり、クラブで踊ったり、それは楽しい仲間と過ごして、ヨーロッパの若い人たちの夜の遊び方を教えて

す。到着したら、そのあとは、自分たちで勝手に行動してよいということ、みんなそれぞれに過ごしていたのでした。街を散策したり、ロシア料理を堪能したり、エストニアにまでフェリーで行った人もいました。私は街を思う存分散策し、ヘルシンキ大聖堂、市場、北欧デザインにも興味があるので、有名なガラスメーカー・イッタラ、マリメッコというフィンランドを代表するデザインのお店に出かけたりしていました。エストニアにも誘われたのですが、エストニアよりも行きたかった「ムーミン・ワールド」へ行くことを決めていたので、次の日、朝早く、ヘルシンキから電車でトゥルクまで出かけ、そこから「ムーミン・ワールド」のあるナントリという街へバスで行ってきました。気持ち

の良くらいいいお天気で、ナントリの街が見えてくると、思わず、「あー」と嬉しくなつたのです。実はナントリの街は海に面しています。海がキラキラ輝いている、潮の香りがする、そんな街だったのです。家族連れが多く、ゆったりした時間が流れるテーマパーク。日本のテーマパークの人ごみをかきわけて行くしんどさもなく、時間を忘れてしまいそうでした。こんな中で、「ムーミン」のお話が生まれたのなら、納得いきます。ちなみに「ムーミン」はカバではなく、北欧神話に登場する妖精みたいなものです。いつのまにか夢中になって、「ムーミン」の世界に入っていました。



ヴァイキングラインにて  
(日本、スイス、オランダ、ギリシャ、スウェーデン、アメリカ、スペインの仲の良い仲間と・・・バーの中で)

房が当たり前ですが、ここ北欧では基本的に暖房はあっても冷房がない場所が多いのです。もちろん「ムーミン・ワールド」も冷房なんてありません。帰りのバスも電車も冷房なし・・・さすがに暑さで参ってしまいました。スウェーデン人の友達から、「どこに行つたの? エストニアに行こうって言つたのに!」って言われちゃいました。だが、ムーミン・ワールドまで行けた私は大満足でした。あんなにキレイな景色はエストニアでは見られないって思いながら。スウェーデンに戻るフェリーの中はまた行く時と同じように・・・バーで飲んだり、クラブで踊ったり、それは楽しい仲間と過ごして、ヨーロッパの若い人たちの夜の遊び方を教えて

もらいました。

もともと方向音痴な私ですが、フィンランドでも案の定、地図を見ているのに迷ってしまふことが多く困ることがありました。スウェーデン語で書かれている分には理解できるのですが、フィンランド語は推測できないので、立ち往生することがあります。そのとき、現地の人がよく道を教えてくれたり、ムーミン・ワールドに行くときでも本場に丁寧に教えてくれたりして、とても助かった思いがあります。道を聞くために声をかけようかちよつと迷っているとき、現地の人々の思いやりに助けられたことが、フィンランドの旅を思い出深いものにしてくれたと思います。私の中での「満足な旅」という基準は、おいしい食事と楽しい旅の仲間、人との出会い、そして優しさです。それさえあれば、有名な観光地をくまなくまわらなくてもいいのです。

もちろん、フィンランドには他にもシベリウス記念公園や素敵な場所がたくさんあります。もし今度私が行くなら、ヘルシンキから少し離れた世界遺産の島に行きたいですね。次のお楽しみにエストニアもフィンランドの違う場所もとっています。次なる出会いへの期待とさりげなくヘルプしてくれるフィンランドの人々に「キートス(ありがとう)」を伝えるために。

(清原 舞)

## 晴れのち晴れ-117-

稲垣恵雄

### □おおさか東線

去る3月15日、JR「おおさか東線」が開通した。この線は名称が示すように大阪の東部(放出～久宝寺)を走り、私の住んでいる永和にも新しい駅ができたのである。

4月の終わりに私はヘルパーのMさんに車いすを押してもらって初めて「おおさか東線」で天王寺まで行った。これまで天王寺まで1時間近くかかっていたが、当線では半分の30分程で行くことができ、車内はガラガラの状態だった。たゞ電車の本数が1時間に3本というのが少々不満に思った。

天王寺に着くと、最初に公園に行った。入口に入って少し歩くと、眼前に花畑が広がり、色とりどりの花が咲いていた。そんな中で真っ赤な大輪のカーネーションがひときわ鮮やかだった。カーネーションといえば「母の日」を思い出す。Mさんは「母の日に毎年、娘がカーネーションと品物をプレゼ

ントしてくれるのよ」と感慨深気に話していた。

公園を一周したあと、美術館で開催されていた「聖徳太子展」を観ることにした。館内には太子に関する絵図や掛け軸などおよそ百点が展示されていたが、どれも色が鮮やかで目を見張った。そして太子の歩まれた人生が手に取るように分かり、ご苦労が偲ばれたのである。太子といえば内外の学問に通じ、仏教に深く帰依されたことは有名である。

ところで「おおさか東線」は3年後には放出から新大阪まで延伸されるそうだが、今からその日が楽しみだ。



若い頃から、脳性まひの人は老化が早いという話をよく聞いていました。でも自分に当てはめて真剣に考えることもなく、どちらかと言えば、体に無理をかけ続けていたのかもしれない。

昨年春頃から、左足の股関節から太ももにかけて

の痛みが悩まされ続けています。股関節の痛みは持病のようなもので、数年毎に発症していましたが、今回のものは、それとは違っていました。あえて病名を付けるなら坐骨神経痛ですが、これをきっかけに、日常生活に大きな影響が出てきました。

湯船に入れない。トイレや着替えに時間がかかる。自動車の乗り降りさえ、今までのようにはできなくなりました。元々足が悪かったのですが、それなりに、あまり不自由を感じることなく暮らしていたため、それ

上悪くなることへの備えがまったくありませんでした。

改めて考えてみると、この10年ほどの間に、体のあちらこちらを痛めたり精神的に落ち込んだりを繰り返すうち、体の機能そのものが徐々に低下していったのです。

## 障害の重度化

うえひら☆ゆきお

残っていませんでした。

今もひどい肩こりです。肩の関節も痛いのです。首筋がこわばります。手足がしびれます。手の指もしびれて力が入りません。とにかく体中が痛くてしびれていて、思うように動かないのです。靴下を履く。ボタンを留める。スイッチを押す。手足を伸ばす。寝返りを打つ。そんな何気なくできていたことすら、今は思うようにできません。筋力そのものも落ちているので、車いすをこいでいても、ちよつとした段差やスロープすら越えられなくなりしました。アテトーゼも強くなつた気がします。痛くて夜も眠れません。体が動かないことへのストレスと、このまま寝たきり状態になつてしまうかもしれない不安。精神的にも落ち込む日々が長く続いています。

二次障害が出たとも言えます

し、障害そのものが重度化したとも言えます。年齢から考えて、老化も関係しているでしょう。頸椎や腰椎が関係しているかもしれない。股関節も悪いのです。おそらく、いくつもの原因が複合していると思います。それぞれ悪いところの治療に専念できればいいのですが、仕事の関係もあり、今は、それもできません。逆に、今のような体の状態で働き続けていること自体が、自分自身の寿命を削っているのと同じだということも、よく分かっていきます。

た。結果として次第に筋力も落ちていたようです。その後も、風邪をひくたび、ちよつとした怪我をするたびに、体が弱つていったのだと思います。昨年左足に痛みが出た時点で、それを力パーするだけの力が、右足にも両腕にももう

もちろん、いくつもの病院にかかっています。整体や漢方薬も試しました。でも、どれも期待したほどの効果がありません。

重度化していく障害と働くことの意味。今の体の状態に合わせた日常生活の見直しと、経済的な意味での生活水準の維持。いよいよ両立が難しくなってきました。定年まではあと10年あります。悪あがきかもしれませんが、魔法のような特効薬や奇跡的な治療法はないものでしょうか。

## 美智子のこんな話

岸田美智子

届け！ 橋下知事に・・・

5・13 知事に届けよう！

障害者や家族の思い

大阪ネットワーク報告

よい天気にも恵まれた5月13日、大阪府から出された大阪府財政再建プログラム試案（PT案）に対しての、障害者団体の大規模な抗議行動が行われました。この日の行動は朝10時からだったのですが、まいどのメンバーは朝府庁に出勤して来る職員に対してのピラマキ行動の担当になっていたので、朝8時30分には府庁に着いていました。朝の空気が新鮮だなあと久しぶりに感じながら、府庁の周りにちらばりこの日のアピールカラーの黄色で作られたピラを配りました。ジョギングして

いる方などもいて、府の職員かどうかかわかりにくかったけれど、黄色いピラはまあまあ受け取ってもらいました。9時半頃から参加者が集まり始めました。最終的には予想を上回って3000人の参加があったそうです。参加団体は19団体で10時から行われた抗議集会では、参加団体からのアピールやぼちぼちクラブの塚本さんは、抗議の歌を歌っていました。府会議員からのアピールもいただきました。そして、11時頃からメイン行動のひとつでもある、府庁の周りを参加者全員で人間の鎖で囲む行動へと移っていききました。12時頃にはマスコミのヘリコプターが空撮に飛び回り、参加者全員でヘリコプターに向かって黄色のピラを一斉にふり、抗議行動をアピールしました。ヘリコプターに手を振るのはやはり感動的でした。この日の行動の様子はTVやラジオ、新聞などマスコミに大きく取り上げられました。

PT案の削減内容で、障害者の私たちの生活に直接影響するものを、以下に挙げておきます。

○精神障害者の通院費負担軽減策を今年11月に廃止、自立支援法どおりの負担に。

○重度障害者医療費助成も11月に削減（1割

負担化、上限2500円だが償還払いとなるため窓口では1割負担となり多額の一時金が必要となる）。

○移動支援や日常生活用具の負担軽減策を今年度で廃止。

○自立支援法で大きな打撃を受けてきたグループホーム（ケアホーム）の支援体制への上乘せ補助を今年で廃止。

○住宅改造助成を今年8月に廃止。ヘルパー等の人材養成講座の廃止・削減。

○施設や病院からの地域移行施策や権利擁護活動、就労支援施策の削減・廃止。等々。

これらで削減する予算総額は16億円程度。以上のような削減案がでていますが、今後どうなるのか注目していきたいものです。

### ありがとうございました。

カンパ、お茶・お茶菓子・切手・バザー用品のご寄贈、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございました。

大賀由佳、奥田久子、風智恵子、竹村定子、照井邦子、東百合子、東野香津美、平岡太、松森美智子、眞殿香與女、藪シサ、吉岡克彦、吉原和郎、その他の方々。（敬称略）



7月はどこのサロンの、  
どのテーマが  
お気に入りですか。  
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」7月の出会い

日時：7月20日(日)午後1時30分～4時  
内容：サクソで奏でる音楽の調べを  
～電動車いすで、さっくす演奏のパフォーマンス～  
ゲスト：宮園 稔氏

(大阪市福祉教育アドバイザー研究会)

場所：淀川区民センター「やすらぎ」  
[大阪市淀川区三国本町2-14-3]

会費：なし

問い合わせ先：淀川区社協〒532-0005 淀川区三国  
本町2-14-3 ☎06-6394-2900  
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」7月の出会い

日時：7月12日(土)  
10時～14時30分(終了時間)  
内容：「西区介護フェア」のイベントに参加しよ  
う!現地集合、現地解散。自由見学です。  
場所：西区民センター(地下鉄西長堀駅下車・中  
央図書館隣)  
会費：なし

問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・にしよど」7月の出会い

日時：7月26日(土)午後1時30分～4時30分  
内容：「夏祭り」恒例の「タコ焼き」と「折り紙」  
をしますので、お手伝いに来ていただけ  
る方、お待ちしております。

会費：無料(お手伝いをお願いします)

場所：西淀川区子ども子育てプラザ  
「大阪市西淀川区姫里2-13-22」

問い合わせ先：中本 ☎090-9864-9678

■「ウイズ東淀川」7月の出会い

日時：7月13日(日)午後1時30分～4時30分  
内容：全盲と車いすで、点字情報サービスを営  
む重複障害の生活を語る。

パネラー：千崎東亜雄(せんざきくにお)氏

集合場所：NPO法人自由空間クラブ  
東淀川区淡路5丁目

会費：なし

問い合わせ先：鈴木昭二

☎06-6340-3082

FAX06-6340-3012

■「サロンいたみ」7月の出会い

日時：7月12日(土)午後2時～3時  
内容：シティフィルハーモニー演奏会  
場所：伸幸苑[伊丹市寺本6-150]  
問い合わせ先：安藤れい子

☎072-784-1718

寄りみち



■童謡♪絵はがき・おべんとう。昭和の初め、アルミニウムをアルマイト加工した弁当箱が開発され、目の覚めるような銀色で、使い勝手の良さもあって普及しました。また、暖房にストーブ類が使われていたころは、持参したアルマイト弁当箱をストーブの上で保温・加熱するというのもしていました。今は昔、幼稚園の時のこと。いつものようにストーブに弁当箱を置いて、しばらくすると、なんともいえない臭いが教室の中いっばいに広がりました。驚いた先生「だれ? お寿司ぬくめたらあかんがな」。暖房のほとんどが電気・ガスに変わった平成の世では考えられない、戦中のおはなし。(石)

# さろん亭

## 品物の提供を お願いいたします

「さろん亭」開店の日が近づいてきました。石鹸1個、  
タオル1本でもかまいません。品物の提供をお願いいたします。



今年もさろん亭の品物をお願いする時期になりました。ご承知のとおり  
世間一般に経済情勢は厳しいものがあります。<サロン・あべの>の台  
所もご多分にもれず・・・です。さろん亭の収益はサロン活動にとって  
欠かせない大きな財源のひとつです。何はともあれみなさまの協力を寄  
与するところ大です。他に提供される先があろうかと思いますが、さろ  
ん亭を最優先に品物の提供をお願いします。

.....

品物をご連絡くだされば取りにうかがいます。またこわれる  
ものでなければ送料着払いでお送りくださっても結構です。

# <サロン・あべの>

連絡先 富田慶子 545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL/FAX 06-6691-1028

<サロン・あべの>VOL. 264 発行：平成20（2008）年6月21日 定価¥100  
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子  
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>  
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941  
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212  
本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>

一九九二年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）